

ABiS Symposium

先端バイオイメージングの現在そして未来 ～我が国の研究戦略～

2021年2月24日（水） 12：30 – 16：20 Zoomウェビナー開催

参加者アンケート



実施期間：2021年2月24日～3月2日

実施方法：ABiSウェブサイトアンケートフォーム

参加者数：171名 回答数96名（回答率56.1%）

Q1. あなたの職名をお聞かせください

属性	人数	
Senior faculty（教授・准教授相当職）	31人	（32.3%）
Junior faculty	29人	（30.2%）
ポスドク	6人	（6.3%）
学生・大学院生	9人	（9.4%）
企業研究者	8人	（8.3%）
テクニカルスタッフ	4人	（4.2%）
その他	9人	（9.4%）

その他

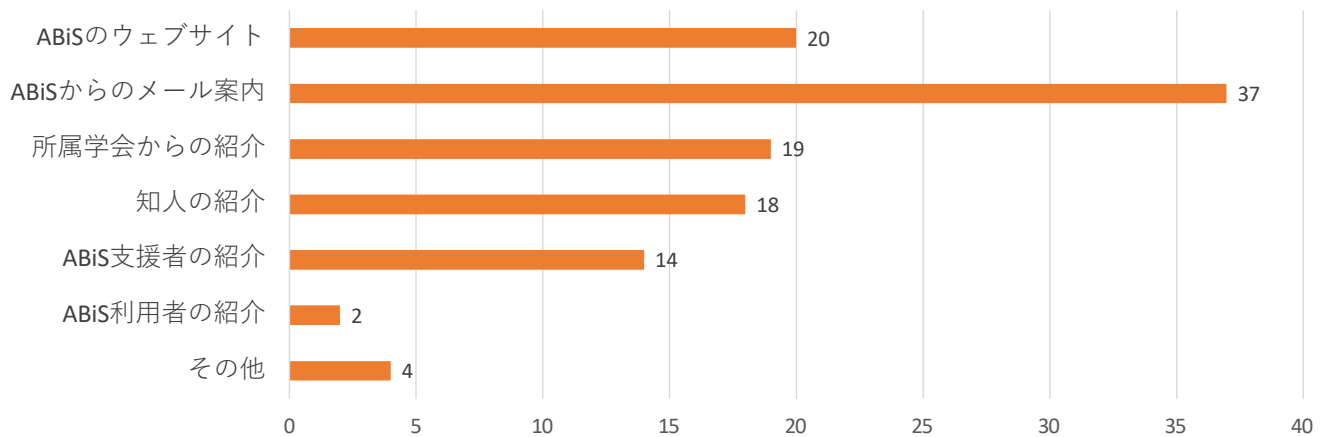
・上級技師
・企業営業

・JST ・施設運営
・企業商品企画

・事務支援員
・商社営業

・医療研究支援団体職員
・スタッフ（?）

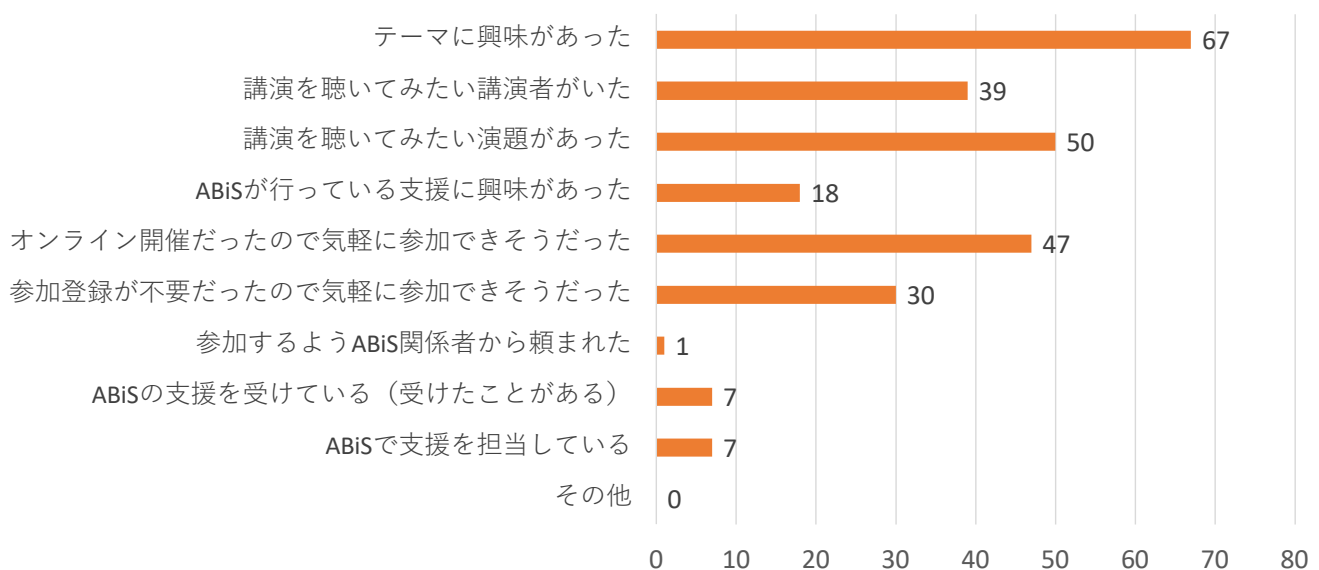
Q2. 本シンポジウムが開催されることを何で知りましたか？ (複数回答可)



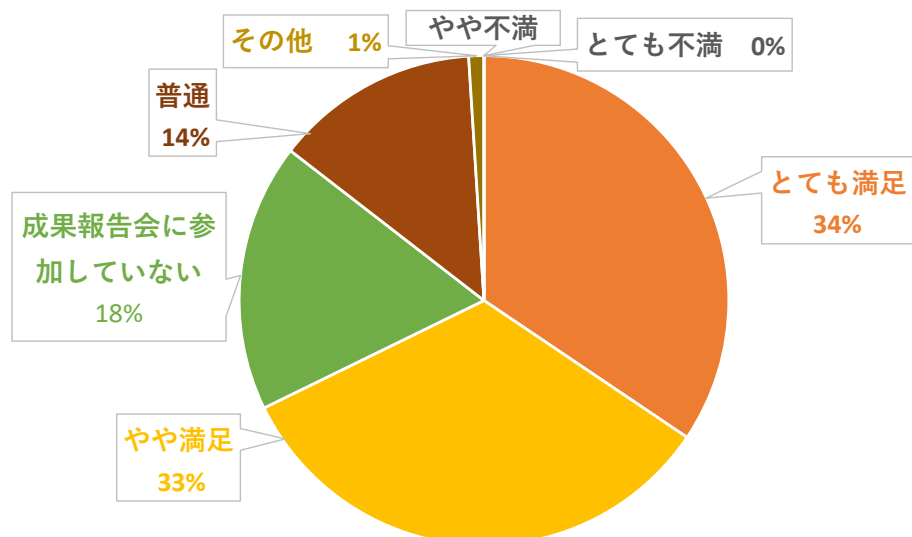
その他

- ・ researchmapからの紹介
- ・ 指導教員からの紹介
- ・ 発表の依頼メール
- ・ HP (学会カレンダー)

Q3. 本シンポジウムへの参加動機について教えてください (複数回答可)



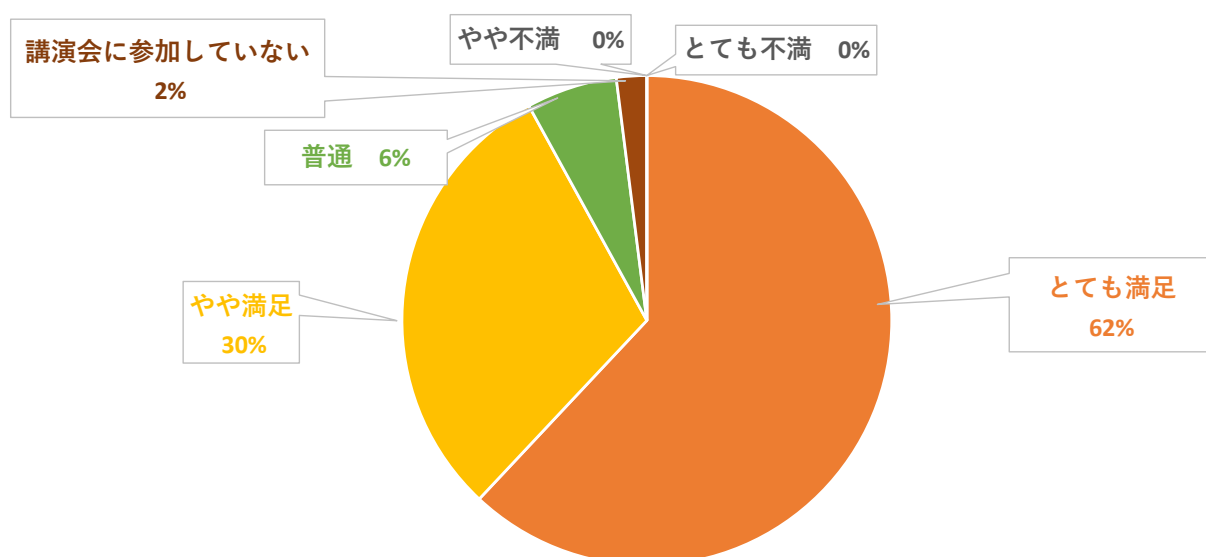
Q4. 前半の成果報告会に参加した感想を教えてください



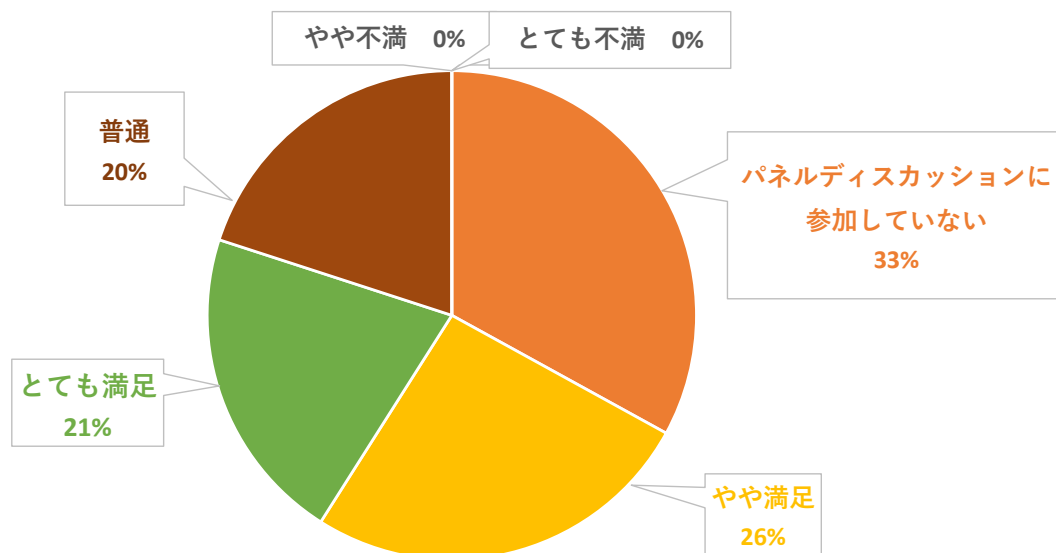
その他

- ・研究発表になってしまい、もっとABiSを利用して乗り越えられた経験に関しての内容があると今後の参考になるかと。正直共同研究とどう違うのか不明。

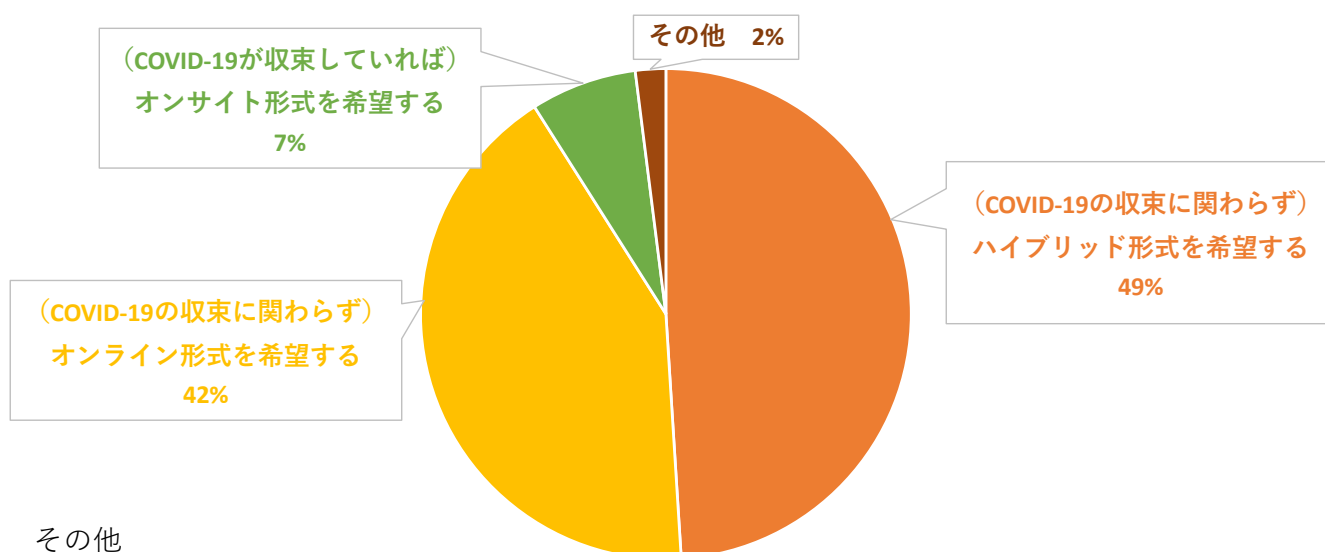
Q5. 中盤の講演会に参加した感想を教えてください



Q6. 後半のパネルディスカッションに参加した感想を教えてください



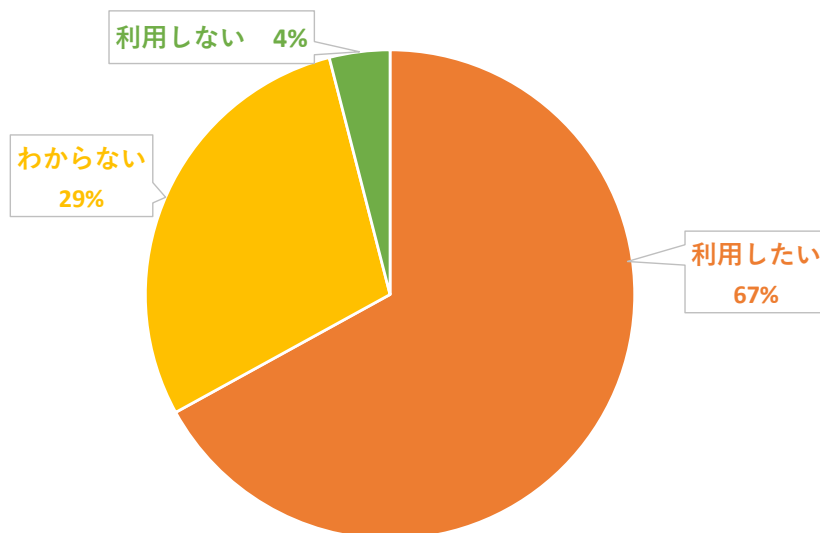
Q7. 今後、ABiSが開催するシンポジウムの形式について



その他

- ・わからない
- ・匿名で質問を出することができるという点でも、ハイブリッドが助かります（司会進行の先生には、大変かとも思いますが...）。

Q8. 本シンポジウムに参加してみて、今後ABiSを利用しようと思いましたか？



Q9. 今後イメージングに関するどのような研究支援があればいいと思いますか？

現下の“with COVID-19”、“post COVID-19”において、より発展的なバイオイメージング支援活動を進めていきたいと考えております。ご意見やご要望を頂戴できれば幸いです。

- 仲介者を介した支援。支援者とうまくいかない場合がある。
- 2光子励起顕微鏡を活かした骨・軟骨・腱靱帯の解析で、資金面で難があり、立ち上げからご支援があればと思っています。
- 個人的な興味ではありますが、ヒト筋肉の質を観る手法があればと思っております(MRI画像支援でしょうか？)。
- まず広く知っていただき、実際に使って改良を重ねながら実用化に近づくためのコーディネート支援
- 出来上がったデータを示す講演会ではなく、得られた生データをどのように解析すれば論文投稿や学会発表に使える図となるのか、どのようなソフトウェアのどのような機能を使用するのか、というデータ取り扱いの研究支援
- CTや蛍光イメージングに続いてPETやSPECTなどの放射性イメージングに関する支援があると嬉しいですね。
- 顕微鏡や解析ソフトウェアの遠隔操作
- ABiSの支援を検討している研究者と、事務局担当者でオンラインディスカッションを行うことにより、どのような研究を行っているかが把握でき、そしてどの拠点による支援が最も適しているかなど、協議・検討を行いやすいかと思われますので、ご検討くだされば幸いです（非常に大変と思われますので、月に1回くらいでもよいかと思われます）。
- リモート観察・画像解析支援
- サンプルを送るとデータが返ってくるような支援

(次ページに続く)

Q9. 今後イメージングに関するどのような研究支援があればいいと思いますか？

現下の“with COVID-19”、“post COVID-19”において、より発展的なバイオイメージング支援活動を進めていきたいと考えております。ご意見やご要望を頂戴できれば幸いです。

(続き)

- パネルディスカッションでも出ていたが、研究過程で取得された画像データをうまく共有できる仕組みがあるとよいとおもいます。
- 画像解析
- イメージングに関してはどちらかというと素人なので、そういう人にも研究支援がしやすい相談窓口とかあれば嬉しいです。また、そういう人を除外するようなことはしてほしくない。仲間内だけでやるのは止めてほしい（現状は知りませんが）。
- 新たに開発された機器の普及・展開
- ネットワーキングがもっと密になるといいかと。情報共有って難しいですね。
- 遠隔操作、データレポジトリ
- 協業というお話がありましたが、生物学に携わる研究者の画像解析技術のボトムアップを支援するような仕組みがあると大変有難いです。例えば画像解析技術など、解析パッケージなどでもし公開可能なものがあれば簡単な紹介と共に公開していただけると幸いです。どのような技術があってどのような課題が解決できるのかといったことだけでも知れると、自分の研究の展開が広がっていくものと思います。
- Micro CTを気軽にためしてみたいです。植物研究者には敷居が高いため。

Q10. 今後どのような技術講習会やイベントがあればいいと思いますか？

- 最先端論文技術の支援先、論文化例
- 画像解析
- このような技術活用基盤の構築（ネットワーク形成）の事例など
- 先程の研究支援と重複するが、データ解析方法を示してほしい。たとえば、論文を読んでも解析が完了した結果が見ることができないので、解析を行うために調整すべきパラメーターを示す。また、解析を行うことでより高い品質のデータを取得する必要があるということになったとき、具体的にどの部分を改善すべきかをどのパラメーターを見てどのように判断し、どの部分を具体的にフィードバックすべきか、を経験や感情ではなく理論的に説明してほしい。
- イメージング全般です。
- L S F Mの技術講習会
- 大規模データ解析
- テクニカルセミナー
- ABISで利用できる技術の紹介（本日の中盤のような感じで）

(次ページに続く)

Q10. 今後どのような技術講習会やイベントがあればいいと思いますか？

(続き)

- AIを活用した画像解析
- 入門みたいなもの。敷居が高いのもある。
- 専門外のテクニカルスタッフでも参加可能な初級画像データ解析講習会のようなもの
- ABISのノウハウというか、自前でできないことをどの様にして実現して、研究を進めていくか。
- 上の回答と関連いたしまして、イメージング技術講習会など、誰でもいつでも講習会を受講できるようにしていただけるとありがたいです。オンサイトでの講習会は人数制限があり、なかなか気軽には受けられません。講習会のアーカイブを公開していただけると一番受講しやすいですが、もし公開が難しいようでしたら、オンライン開催など広く受講できるような環境を維持していただけますと幸いです。

Q11. ABISへのご意見、ご要望がございましたらお聞かせください

- 今後、申請させていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
- 事前登録不要で気軽に参加できました。ありがとうございました。
- 次年度は最終年となりますため、従来同様の支援方法とならないかと察せられます。そのため、おはやめにそうした点の連絡などをくださりますならば幸いです。
- 今後とも本事業を続けていただきたい。
- 続けて欲しい
- 今回は、今後の話でしたが現実的にデータ量が増えているので画像解析の支援は重要だと思います。
- 入り口を広くしてほしい。
- 科研費採択課題以外をどうするか？
- 本日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- パネルディスカッションが勿体なかった。折角の顔ぶれでしたが、テーマがちょっと曖昧すぎたかと。
- 非常に素晴らしい取り組みですので、次期以降も更なる発展を期待したく存じます。本日のようなツール開発に強い研究者、既存のイメージングツール利用の両面から支援できる体制となることも期待したく存じます。
- シンポジウムやトレーニング情報をメールいただけるメールマガジンをABISのウェブサイトに登録できるようにしていただきたいです。